

日本珐瑯工業会 50 周年寄稿文

工業会が発足して 50 年ながい様であつと言う間だったように思います。
私が原田珐瑯製作所に入社してから現在までの期間とほぼ同じになります。

弊社の生業である珐瑯看板の製作を過去 10 年ごとに振り返りますと本当に変化して来ました。

本来、珐瑯の製作は焼成炉を中心とした装置産業だと思います、これはどうしても大量生産型の業種です。

1970 年代から 1980 年代（昭和～平成のはじめの頃）までは大量生産の流れが辛うじて残っていたと思います。

1990 年以降は他の生産物も大量生産から少量多品種生産に変化して参りました。特に珐瑯看板はこの傾向が顕著だったと思います、弊社も 2000 年頃から少量多品種生産にも対応ができるように変わって参りました。

珐瑯業界を取り巻く環境は昨今の燃料、原材料、諸材料の高騰もあり先々の不透明な要素もあり難題山積かと思えます。

しかしながら珐瑯看板には他の素材には無い今回の 50 周年のコンセプトにもあります『鉄の強さ、ガラスの美しさ』で強調されるようにたぐいまれな良さがあると思います。

これからも珐瑯看板をつくることに後継者ともども精進をして参りたいと思います。

最後になりますが日本珐瑯工業会 50 周年おめでとうございます、今後一層の工業会のご発展をお祈り申し上げます。

2026 年 7 月 30 日

株式会社原田珐瑯製作所

代表取締役 原田 康幸